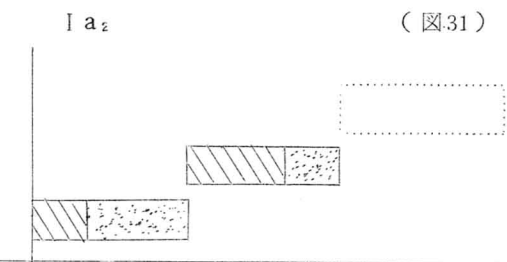
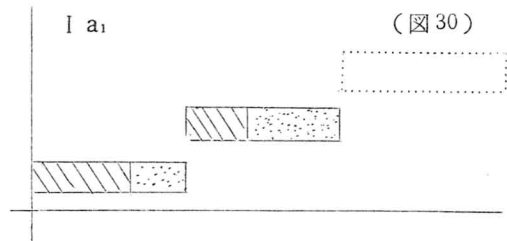


注1 [] は、卒業に必要な単位修得後能力に応じて履修し得るもので、選択科目の中から、生徒の実態に応じて設定できるものである。

注2 このモデルは、1年・2年で履修する場合を示しているが、2年・3年で履修したり、1年・3年で履修したり、1年・2年・3年で履修したりできる。

もちろん、以上のモデルから、いくつかの変型モデルをつくることもできよう。

たとえば、I a の変型として、



などを考えることができる。それぞれの学校が生徒の実態にあわせて、もっともふさわしいモデルを選ぶようにすればよい。

要するに、それぞれの科目の授業時数の限界の中で、さまざまなヴァリエーションを作ってみることである。

選択の科目を多くつくるばかりでなく、時間にも思いきった幅をもたせて「弾力的に」というこ